

施策・事務事業マネジメントシート【令和8年度】

1 施策の基本情報(Plan)

施策名		13 市民スポーツの振興
目的	対象	市民
	意図	誰もがスポーツに親しみ、楽しむことができる スポーツを通して交流がはぐくまれる 誰もがスポーツを通して心身ともに健康になる
施策の方向		年齢や障害等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。また、ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承・発展させ、スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

【施策と関連するSDGsの目標（ゴール）】



2-1 施策全体の考察①（施策の目的、方向に対する考察）

施策の目的、方向に対する考察（PDCAサイクルにおけるCheck・Action）

・令和7年度は調布市スポーツ推進計画の2年度目となることから、計画に掲げる将来像に向け、体系化した施策を引き続き、着実に推進した。

・スポーツ施設の老朽化対応、安全確保を踏まえた改修などの施設整備のほか、味の素スタジアムや京王アリーナTOKYOなどで開催される様々なスポーツ大会などの観戦機会の提供、次世代アスリートへの支援等、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点から、スポーツ環境の整備に向け取り組んだ。

・また、調布市スポーツ協会事業を引き続き支援することによるスポーツ振興の推進、東京2020大会を契機としたバラスポーツの普及・啓発、障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた支援や障害理解の促進への取組などを推進した。

・FC東京をはじめとするトップスポーツチームとの連携においては、各主体とのパートナーシップを生かし、スポーツのみならず、様々な分野で連携したまちづくりへとつなげることができた。

・今後もスポーツ施策を着実に推進するとともに、令和7年度に開催した東京2025デフリンピックのレガシーについても継承・発展させ、更なる共生社会の充実につなげていく。

2-2 施策全体の考察②（まちづくり指標の推移／考察）

まちづくり指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (目標年度)			目標値	指標の推移	考察 (目標達成の要因、課題、目標達成に向けた今後の取組の方向等)
			(令和5年度)	(令和6年度)	(令和7年度)			
体育施設の年間利用者数	人	80万1908 令和3年度	83万8153	89万6235	92万670	106万 令和8年度	○	・市内のスポーツ施設の中で使用率が非常に高いテニスコートについて、LED化工事等で複数施設が長期休場となり、利用者数に影響があったものの、他施設の利用者数が概ね増加していることから、前年度を上回った。 ・土日については各施設の利用人数が多い一方、テニスコート以外の施設については平日の利用率が低く、目標達成における課題となる。
運動を週に1回以上行っている市民の割合	%	69.0 令和4年度	72.9	71.4	73.0	73.0 令和8年度	◎	目標達成の要因として、スポーツのイベントや体験機会の充実により、スポーツへの興味関心が向上したことや、健康維持や体力増進など健康意識の高まりが考えられる。
FC東京等スポーツチームとの連携事業数	件	39 令和3年度	60	129	204	180 令和5～令和8年度 の4年間累計	◎	各チームとの関係性が深まり、連携の幅も広がったことで、多くの連携事業を実施することができ、目標値を達成した。チームにより連携数にばらつきがあるため、今後はより多くのチームと更なる連携を図る。

※ ◎：目標達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ又は前年度数値未把握） ー：数値未把握（調査未実施など）

3 施策を構成する基本計画事業等の取組実績／今後の方向

■13-1 スポーツ環境の整備

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
48	スポーツ施設の整備	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・市民が安全で快適にスポーツ施設を利用できるよう、各施設の整備・維持管理を実施した。 ・修繕件数：27件 調布基地跡地運動広場A5グラウンド防球ネット修繕 他 ・工事関係：緑ヶ丘テニスコート夜間照明LED化 他 ・調布市民西調布体育館機能移転に関する基本構想の策定	☐ 現状継続 ☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☒ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・今後も快適で安全な魅力あるスポーツ施設とするため、利用者ニーズに沿った利用環境の向上に努め、施設の保全・改修等を行う。 ・施設の老朽化対応、安全確保を踏まえた今後の改修について、市民要望も踏まえて検討・調整に取り組む。 ・「調布市立調布中学校屋内プール・調布市民西調布体育館複合施設整備・運営に関する基本計画」に基づき、複合施設の整備を進める。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)			今後の取組の方向(Action)		
①暑熱・土埃対策として、基地跡地運動広場A6グラウンドへの散水設備設置を行った。 ②「国際・全国スポーツ大会出場報奨金」について、様々な競技における大会等出場者に対して60件の報奨金を交付し、次世代アスリートを支援した。 ③調布市民プールのあり方に関する基本的な考え方の策定			①熱中症対策や、グラウンド不陸整正、修繕などにより、利用環境の向上を図る。 ②「国際・全国スポーツ大会出場報奨金」の活用促進はもとより、応援アスリート制度の普及・啓発を行うことで、次世代アスリートの更なる支援を図る。 ③市民のスポーツ環境を巡る状況やスポーツニーズの変化、また財政状況や公共施設全体のマネジメントの視点から市全体として最適なスポーツ施設の配置や機能のあり方検討に取り組み、「(仮称)調布市スポーツ施設再配置計画」の策定を目指す。		

■13-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
49	調布市スポーツ協会事業の支援	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・調布市スポーツ協会において、市民スポーツ大会、市民スポーツまつり等の主要事業を開催し、スポーツ活動の普及促進を図った。 ・リフレッシュ体操スクールを8会場28クラス実施し、運動習慣のきっかけづくりに寄与した。 ・CHOFUドリームプロジェクトでは、女子バスケットボール日本代表選手をゲストに招き、競技への興味、関心を高め、スポーツに接する機会を創出した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・市民スポーツ大会、市民スポーツまつり等の主要事業を継続的に実施し、更なる充実を図る。 ・リフレッシュ体操スクールやCHOFUドリームプロジェクト、まちなかスポーツパークをはじめ、各事業を継続的に実施し、スポーツ機会の創出を図る。 ・市主催事業でのスポーツボランティアの積極的な活用により、活動機会の創出とスポーツの担い手の育成を図る。
No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
50	【重点④】 東京2020大会等のレガシーの継承・発展	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・スポーツ協会、市教育委員会と連携してジュニア陸上体験教室を実施し、子どもたちの陸上競技への興味関心の向上や体力向上に寄与した。 ・調布市障害者スポーツの振興における協議体の活用による、障害当事者の運動機会の確保や環境づくりに努めた。 ・日本ブラインドサッカー協会を始めとする各団体と連携した教育プログラムを実施し、インクルーシブスポーツの普及を図った。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・ジュニア陸上体験教室を継続的に実施し、更なる充実を図る。 ・調布市障害者スポーツの振興における協議体を継続的に活用し、障害当事者の運動機会の確保や環境づくりのためにより効果的なアプローチを模索する。 ・各障害者スポーツ団体との連携による教育プログラムを継続的に実施しつつ、東京2020大会開催施設や実施競技団体と連携し、インクルーシブスポーツイベントの実施によるインクルーシブスポーツの更なる普及を図る。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)
①調布市応援アスリートとして、新たに2人を認定。既認定アスリートのパネルを作成し、市民スポーツまつりで展示をするなど、市内外に応援アスリートの存在や活躍について発信した。 ②バラスポーツ体験会（令和7年度はスポーツ協会に運営を委託）や車いすバスケットボールCH0FUエキシビジョンマッチ i n 京王アリーナT0KY0を実施した。 ③東京2025デフリンピックの開催に当たり、日本デフバドミントン協会等の多様な主体と連携し、市立小・中学校の児童生徒を対象とした特別授業「調布市デフプログラム」を実施し、大会の機運醸成や障害理解の促進に寄与した。	①調布市応援アスリートの新規認定対象の情報収集と、既認定アスリートの活躍を広く広報周知することにより、市民の応援機運醸成を図る。 ②別々に行っていたバラスポーツ体験会と車いすバスケットボールCH0FUエキシビジョンマッチを統合開催し、1つのイベントとして集約することで、運営コストの軽減や集客を集中させ、コンテンツの充実やより効果的なバラスポーツの普及啓発を図る。 ③デフリンピック開催を契機に確立したデフ団体との関係性を生かし、教育プログラムを始めとするデフスポーツの普及啓発や障害理解の促進につなげる取組を継続的に実施する。

■13-3 F C東京等様々な主体と連携したスポーツ振興等の推進

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
51	F C東京等様々な主体と連携したスポーツ振興等の推進	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・F C東京と連携した、朝活事業やレディースフィットネス等の、運動不足を感じている方などを対象にした誰でも参加しやすい運動を行う事業を拡充し、運動のきっかけづくりを行った。 ・各チームとの連携による観戦機会の場を提供することで、スポーツ振興を図った。 ・各チームに関する情報発信を積極的に実施することで、応援機運を醸成した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・競技体験等の実施について、既存事業を継続的に実施しながら、スポーツに触れるきっかけづくりを推進する。 ・各チームと引き続き連携して観戦機会の提供を行い、スポーツ振興を図るとともに、チームへの愛着を醸成することで、スポーツを核としたまちづくりを推進する。 ・各チームに関する情報発信を積極的に行うことで、更なる応援機運の醸成を図る。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)
①F C東京「市制70周年記念冠マッチ」「青赤ストリート」では、地域、関係団体・チーム及び行政の官民連携の下、地域振興等のまちづくりを協働で推進した。 ②東芝ブレイブルーバス東京及び東京サントリーサンゴリアスについて、調布市を含む3市連携事業を実施した。 ③読売巨人軍との連携による広報大使の活用を通じて、調布のまちの魅力発信に努めた。 ④N T T 東日本バドミントン部と共催して地域感謝祭を実施した。 ⑤F C東京と令和7年8月10日に「調布市と東京フットボールクラブ株式会社との包括連携に関する協定」を締結した。 ⑥調布基地跡地留保地の活用による施設整備に関する基本計画の策定及び同計画に基づく整備内容等の検討	①F C東京との連携事業を継続的に実施することで、地域振興等とスポーツ振興を図る。 ②ラグビー2チーム及び府中市、三鷹市との連携事業を継続実施する。 ③読売巨人軍広報大使を活用した、スポーツ振興及び地域振興に向けた取組をさらに拡充する。 ④N T T 東日本バドミントン部等のトップスポーツチームの応援機運醸成に係る取組を実施することで、スポーツ振興を図る。 ⑤調布基地跡地留保地の活用のほか、「スポーツ・健康・健全育成・教育・まちづくり・協働・市政情報発信等」の多分野の地域連携を図っていく。 ⑥調布基地跡地留保地施設整備基本計画に基づく整備に向けた取組の推進

4 施策の推進、成果向上の視点（4つの視点）を踏まえた令和7年度の実績及び令和8年度の具体的な取組

デジタル技術の活用	共創のまちづくり
・イベント情報や地域スポーツ団体の活動、トップスポーツチームに関する情報について、東京都調布市スポーツインフォメーション【公式】X（エックス）にて情報発信を行う。【令和7年度・8年度】 ・スポーツ施設等の公共施設予約システムの更新について、利便性向上に向けたオンライン登録、キャッシュレス決済の検討を行い、令和9年2月の稼働を目指す。また、GovTech東京による共同調達を活用したコストの削減及び自治体間の横連携を図る。【令和7年度・8年度】	・F C東京をはじめとしたトップスポーツチームなどの様々な主体と連携し、市民がスポーツを「する」「みる」機会を充実させ、スポーツに親しめるよう、市民スポーツの振興に取り組む。【令和7年度・8年度】 ・民間企業やボランティア団体等との連携により、各種スポーツ大会等において、「ささえる」機会を創出し、応援機運を醸成することによるスポーツ振興を図る。【令和7年度・8年度】
脱炭素社会の実現	フェーズフリー
・多摩川テニスコート、緑ヶ丘テニスコート、西町サッカー場の夜間照明について、LED照明に切り替えたことにより、十分な照度を保ちながら日々の使用電力量を削減するなど、環境負荷の低減に寄与した。【令和7年度】 スポーツ施設については、LED照明への切り替えが完了したため、故障等必要が生じた場合に適宜対応を図る。【令和8年度】	・能登半島地震を受け、市で導入したトイレカーについて、普段は基地跡地運動広場に配置し、スポーツ施設利用者がトイレとして利用できるよう整備するとともに、今後も設置を継続する。【令和7年度・8年度】